

文学部 日本学科（令和6年度以降入学生）履修系統図

「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）

【教育課程の編成、教育内容】

日本学科では、ディプロマ・ポリシーとして示した力を修得するために、「基礎教育科目」、「共通教育科目」、「学部共通科目」、「学科共通科目」、「学科基幹科目」、「学科専門」によってカリキュラムを編成している。

- 1) 建学の精神・大学教育に必要な基礎知識、現代社会を生きるのに必要な幅広い知識を修得するために、「基礎教育科目」・「共通教育科目」を設置する。
- 2) 日本語・日本文学、国語教育・日本語教育、伝統文化・観光、現代文化（和食）の各領域についての専門的な知識・技能を修得するために、学びの根幹となる講義および演習・実習科目を「学科基幹科目」に設置し、多岐にわたってより専門化した講義および演習科目を「学科専門」に設置する。
- 3) 言語およびデジタルメディアによる表現力の基礎を修得するための科目を「学科基幹科目」に設置する。さらに、客観的に思考・判断しそれを表現する能力を養うための科目を「学科専門」に設置する。
- 4) 進路について考える科目を「学部共通科目」に設置する。また、「学科共通科目」において主体性と協働する力を修得する科目を2学科で設置する。加えて、社会体験に関する科目を「学科基幹科目」に設置し、各領域について課題発見・検討・改善に関する講義や実践的な演習・実習科目を「学科専門」に設置する。さらに総括的なゼミナールの科目を設置する。

【教育方法】

- 1) 専門的な知識・技能を修得する授業では、プレゼンテーション、グループ活動などのアクティブ・ラーニングを多く取り入れ、主体的・対話的な学びの深化を図ります。
- 2) 言語的表現によるコミュニケーション能力を身に付けるために、読む・聞く・書くという実践的学びを行うとともに、視覚的表現によるコミュニケーション能力を身に付けるために動画編集などの演習を行います。
- 3) 体験型活動を多く取り入れ、他者と協働し主体的に課題解決に取り組む経験を積む機会を十分に設けます。

【学修成果の評価方法】

- 1) 各科目の教育内容や形態に応じて、学期中の小テスト・小レポート・提出物、学期末の定期試験・レポートなどで評価する。
- 2) 学生自らの評価として、ルーブリックやコメントシートを用いた自己評価・相互評価を行わせ、その評価が適切であるかについて確認した上で、評価の材料とする。
- 3) 教育課程における学修がどの程度の成果を修めたかについては、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価する。

身につけるべき能力		分野	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
① 知識・技能 日本について、日本語・日本文学、国語教育・日本語教育、伝統文化・観光、現代文化（和食）という多彩な角度から知識・技能を修得し、応用できる。		学科共通科目	日本語教育学概論Ⅰ	日本語教育学概論Ⅱ	国内旅行実務Ⅰ	
				旅行産業基礎	国内旅行実務Ⅱ	
		学科基幹科目	日本文化論Ⅰ	日本文化論Ⅱ	講読Ⅱ（近現代文学） 講読Ⅶ（文学と文化）	講読Ⅰ（日本語学） 講読Ⅲ（古典文学） 講読Ⅳ（日本文化） 講読Ⅴ（メディア文化） 講読Ⅵ（現代文化） 講読Ⅶ（和食文化）
					日本学特殊講義	
		日本語・日本文学コース	日本語Ⅰ	日本語Ⅱ	日本語史 日本語文法Ⅰ（現代）	日本語文法Ⅱ（古典）
			日本文学史Ⅰ（近現代）	日本文学史Ⅱ（古典）	日本文学論Ⅱ（古典）	日本文学論Ⅰ（近現代）
② 思考力・判断力・表現力等 確かな思考力と判断力を養い、言語的表現力および多様なメディアによる視覚的表現を身に付け、それを用いて他者とのコミュニケーションを円滑に図ることができる。		国語教育・日本語教育コース	古典Ⅰ（日本）	古典Ⅱ（中国）	漢文学	
			書道A	書道B	書道C	書道D
					書道史Ⅰ	書道史Ⅱ
		伝統文化・観光コース	観光学概論	観光社会学	博物館展示論	博物館資料論
			博物館概論	生涯学習概論	博物館教育論	
					異文化理解	考古学
③ 主体性、多様性、協働性 日本の言語や文化について関心をもち、主体的な取り組みや他者とのコミュニケーションによって課題を発見・検討し、地域に根差した社会貢献に向けて、他者と協働して改善・解決を図ることができる。		現代文化（和食）コース	情報文化論（メディアリテラシーを含む）	食文化の基礎	現代メディア論	日本のマンガ
					視覚文化論	ファンタジー文化論
					聴覚文化論	日本のアニメーション
					現代食文化論	

文学部 国際コミュニケーション学科（令和6年度以降入学生）履修系統図

「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）

【教育課程の編成、教育内容】

国際コミュニケーション学科では、ディプロマ・ポリシーとして示した能力を修得するために、「基礎教育科目」、「共通教育科目」、「学部共通科目」、「学科共通科目」、「学科基幹科目」、「学科専門」によってカリキュラムを編成している。

- 1) 建学の精神・大学教育に必要な基礎知識、現代社会を生きるのに必要な幅広い知識を修得するために、「基礎教育科目」・「共通教育科目」を設置する。
- 2) グローバルな視野に基づいた幅広い知識・技能を修得するために、英語圏・アジア圏等の文化、ホスピタリティに関する基本的な知識を修得する科目を「学科基幹科目」に設置する。また、外国語・英語教育、国際文化、ホスピタリティに関する専門的な知識・技能を修得する科目を「学科専門」に設置する。
- 3) 外国語およびデジタルメディアによる表現力の基礎を修得するための科目を「学科基幹科目」に設置する。さらに、客観的に思考・判断し、自らの思考や見解を表現する能力を修得するための科目を「学科専門」に設置する。
- 4) 進路について考える科目を「学部共通科目」に設置する。また、「学科共通科目」において主体性と協働する力を修得する科目を2学科で設置する。加えて、海外体験に関する科目を「学科基幹科目」に設置し、観光実践、インターンシップ等で課題の発見・改善を図る演習・実習科目を「学科専門」に設置する。さらに総括的なゼミナールの科目を設置する。

【教育方法】

- 1) 専門的な知識・技能を修得する講義や実習、論理思考を培い課題を発見し解決する能力を養う演習などの中で、アクティブ・ラーニングを取り入れ、主体的・対話的な学びの深化を図ります。
- 2) 日本語や英語、中国語を通して多様な情報メディアを効果的に用いた豊かなコミュニケーション能力を活用することにより、実践的・創造的な学修を促します。
- 3) 地域社会・海外などでの体験型活動に取り組むことにより、他者と協働し主体的に課題を解決する能力を高めます。

【学修成果の評価方法】

- 1) 各科目の教育内容や形態に応じて、学期中の小テスト・小レポート・提出物、中間試験、学期末の定期試験・レポートなどで評価する。
- 2) 学生自らの評価として、ループリックやコメントシートを用いた自己評価・相互評価を行わせ、その評価が適切であるかについて確認した上で、評価の材料とする。
- 3) 教育課程における学修がどの程度の成果を修めたかについては、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価する。

